



今を生きる子どもたちにチャンス

ヴイトール・ガスパール クリスティーヌ・ラガルド

2018年9月24日



幼児教育を受けるインドネシアの子どもたち(写真: Ajun-Ally/Pacific Press/Newscom)
教育への投資を増やすことが各国において持続可能な開発目標の達成につながる

今、世界のリーダーが国連に集っています。これは、あらゆる人のための開発、そして経済、社会、環境の面で持続可能な開発をどう実現するか、すなわち「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」と、そこに掲げられている17の持続可能な開発目標(SDGs)をどのように達成するかを議論するためです。

開発への長い道程

世界では、過去50年に非常に多くのことが開発面で達成されてきました。1990年以降だけでも、10億以上の人々が極度の貧困から脱するという、人類史上、最大規模の進歩が達成されました。こうした成果が生まれた背景には、一連の重要な構造改革の結果、ほとんどの発展途上国で経済が力強く成長したことがあります。また、2000年に合意されたミレニアム開発目標を達成するために国際社会が一致団結して取り組んだことも貢献しました。

ここで2人のインドネシア人女性を例にとりましょう。スリと彼女の孫娘のツティです。スリの年収は米ドルに換算すると1,500ドルで、出産時に彼女自身が命を落とさなかったとしても、7人の子どもの1人を1才までに亡くしていたでしょう。一方、ツティは1万1,200ドルの年収を稼ぎ、出産中に帰らぬ人となるリスクも、子どもを失う可能性もほぼありません。

インドネシアは発展の道を歩み続けています。インドネシア政府は、教育、医療、インフラの開発ニーズを税収拡大による資金調達で満たす計画を推し進めています。5年間でGDPの5%ポイントに相当する歳入増が実現できれば、2030年のSDGs達成に向けたインドネシアの進捗は順調と言ってよいでしょう。

しかし、他の国は遅れを取っています。世界中のあまりにも多くの地域で、いまだに貧困が経済的な進歩を阻害する根本的な障壁となっています。例えばベナンでは、今日生まれた女兒の平均寿命がインドネシア人女性の40年前の平均寿命に相当します。また、1人当たりのGDPも当時のインドネシアと同等です。仮に、ベナンでインドネシアと同じ急成長を再現できたとしても、インドネシアの女兒が2030年には享受できる発展水準にベナンの女兒の手が届くころには、2050年になっているでしょう。

大きな課題

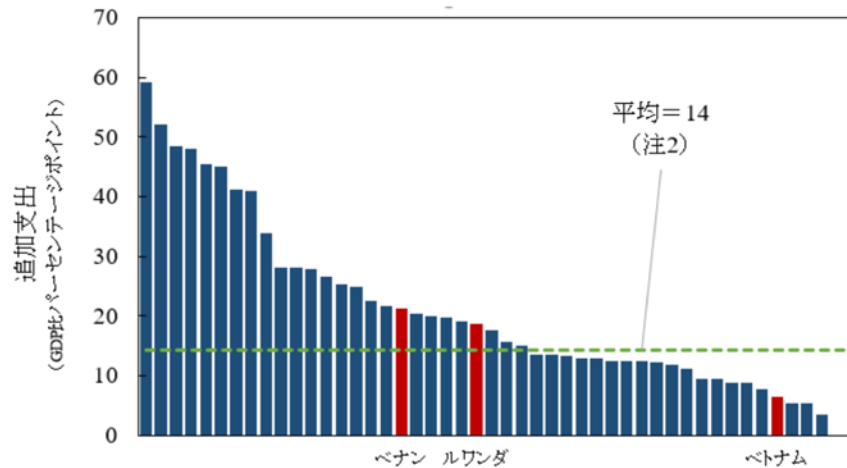
こうした現状では、不十分です。[SDGs](#)は、出生地にかかわらず、すべての子どもたちに平等に機会が与えられる世界を2030年までに実現しようとしているのです。

IMFでは、ベナンのような低所得途上国がSDGsを達成するために、何がどのくらい必要なのかについての[分析](#)を進めてきました。具体的には、教育、医療、水と衛生、道路、電気という持続可能で包摂的な成長にとって重要な5つの分野に注力しました。

こうした分野において、SDGs達成に向けて国々が前進できるようになるためには、どの程度の追加支出が必要になるのでしょうか。IMFの試算結果によると、平均すると低所得途上国はGDPの14%ポイントに相当する額の追加支出を1年間に行う必要があります(下図を参照)。低所得途上国の全49か国について、必要な追加支出額を合計すると1年間に約5,200億ドルになりますが、この数字は他の機関による概算ともほぼ同程度です。膨大な追加支出が必要なことに間違いはありません。

目標達成に必要な支出 (注1)

低所得途上国の大半において
持続可能な開発目標 (SDGs) の達成には
相当な支出増が必要である



出所: IMF職員による試算

注1: 追加支出とは教育、医療、電気、道路、水と衛生に関するニーズへの支出。

ベナン、ルワンダ、ベトナムは、各国の当局および開発パートナーとの議論に基づいたケーススタディ。

注2: 低所得途上国の支出ニーズをGDPで加重平均したもの。



国際通貨基金

SDGs 達成に必要な資金ニーズに対応する

では、あらゆる世代の幸福に不可欠な、この大きな課題にどう取り組むべきなのでしょうか。

私たちの誰もが力を合わせる必要があります。最も重要なのは国々自らが力を注ぐことです。国際機関や政府援助機関、慈善団体や民間セクター、市民社会も協力することができます。

不可欠な第一歩として、低所得途上国が SDGs を達成する責任を自ら負うべきです。こうした国レベルの努力は、マクロ経済運営や、徴税能力の強化、非効率な支出の削減、包摂的な成長を阻む腐敗への対処、また民間セクターが発展できるような事業環境の整備に重点的に向けられなければなりません。こうした分野での行動が SDGs 達成に向けた前進に欠かせ

ない成長を支えていくこととなります。IMF は、加盟国と緊密に協働し、これらの改革課題を積極的に支援していきます。

2つ目の点ですが、国々には税収入を増やす余地が大いにあります。税率を GDP の 5%ポイント上げるのは、多くの国にとって相当高い目標ではありますが、妥当なものです。ただし、この実現には強力な行政改革と政治改革が必要であり、IMF や先進国のパートナーはその支援において重要な役割を担うことができるでしょう。

今申し上げたような税収拡大が実現できれば、インドネシアのような新興市場国にとっては SDGs の達成に十分かもしれませんが、ベナンのような低所得途上国の大半ではそうではありません。

低所得途上国には、既存の資源をうまく活用することに加えて、二国間ドナー、国際金融機関、慈善団体、さらには民間の投資家からの資金援助が必要となります。このような投資家は、事業環境の改善に必要な改革が実施されていれば、インフラやクリーンエネルギーなどの分野で協力できるでしょう。民間投資を促すことで国家の開発計画を支援する動きは、まさに「アフリカとのコンパクト」などの取り組みが目指すものです。

国際金融市場や貸し手からの追加資金調達も可能ですが、民間の取引条件での融資は、高い利益を生むプロジェクトに資金が投入されなければ、諸刃の剣であることも事実です。IMF がここ数年強調してきたように、低所得途上国の 4 割が、過剰債務に陥るリスクが高いか、すでに過剰債務に直面していることが IMF と世界銀行による評価からわかっています。こうした過剰債務は、経済活動や雇用増加の面で混乱をもたらす可能性がありますが、経済活動や雇用増加に SDGs 達成に向けた前進は依存しています。

外国からの援助は非常に重要で、無償資金協力が望ましいのですが、先進国にはこの点でまだまだ多くのことが可能です。例えば、国民総所得の 0.7%を開発援助のために支出する動きもそのひとつです。また、援助予算を、最も支援を必要としている国に集中的に振り向けることもできるでしょう。多くの先進国でも予算が厳しい状況にあることは事実です。ただ、貧困の緩和、雇用創出、安全と安定性の向上など、適切に対象を絞った援助がもたらす経済的な恩恵は非常に大きいものです。

支出の先にあるもの

しかし、開発資金の増強以外にも課題はあります。

インドネシアの事例は、経済成長と開発がお互いを強化し合うことを示しています。一連の課題の重要な側面は、国々が安定的に成長し、その成長を持続させることを目指せる環境です。このためには、地政学的な安定性、開かれた貿易、気候変動に対処する取り組み、不正

な資金を差し出す手と受け取る手の両者に対処して腐敗を防ぐ優れたガバナンスの仕組みなど、様々な種類の国際公共財が必要です。開発にとって重要なこうした基盤を鑑みると、全利害関係者による協力が SDGs の達成に不可欠である点がいっそう明らかなです。

コフィ・アナン氏が亡くなったことの悲しみはまだ癒えませんが、彼はかつて「政治的意思さえ持つことができれば、私たちには問題解決の能力と手段がある」と語りました。この言葉は SDGs のアジェンダ全体に当てはまります。政治的意思を結集して、すべての子どもたちにチャンスを与えていこうではありませんか。



ヴィトール・ガスパールは、ポルトガル国籍。IMF 財務局長。IMF での勤務前は、ポルトガル銀行で特別顧問など政策関連の要職を歴任。2011～2013 年にはポルトガル政府の財務大臣。2007～2010 年に欧州委員会の欧州政策顧問局長、1998～2004 年に欧州中央銀行の調査局長を務めた。ノーバ・デ・リスボン大学で経済学博士号とポスト・ドクター学位を取得。また、ポルトガル・カトリカ大学でも学んだ。



クリスティーヌ・ラガルドは、国際通貨基金専務理事。1 期目の 5 年間を終了し、2016 年 7 月に 2 期目の再任。フランス国籍。2007 年 6 月から 2011 年 7 月まで同国の財務相。また、それ以前に 2 年間、対外貿易担当相も務めた。

反トラスト法、労働法弁護士として多方面で活躍。ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のパートナーとして活躍し、1999 年 10 月には同事務所のチェアマンに就任。2005 年 6 月にフランスで初の入閣を果たす。ラガルド氏は、政治学院と第 10 大学ロースクールで学位を取得。パリ第 10 大学ではベーカー&マッケンジー事務所勤務前の 1981 年に講義を行った経験もある。

関連リンク:

[IMF と持続可能な開発目標 \(SDGs\) について知っておくべき 5 つのこと](#)

[Mounting Debt Threatens Sustainable Development Goals](#)

[Financing for Sustainable Development: Money and the Right Policies](#)